

# 令和6年能登半島地震の地震動特性ならびに建築物被害

徳島大学 大学院 社会産業理工学研究部 社会基盤デザインコース 講師 白山 敦子

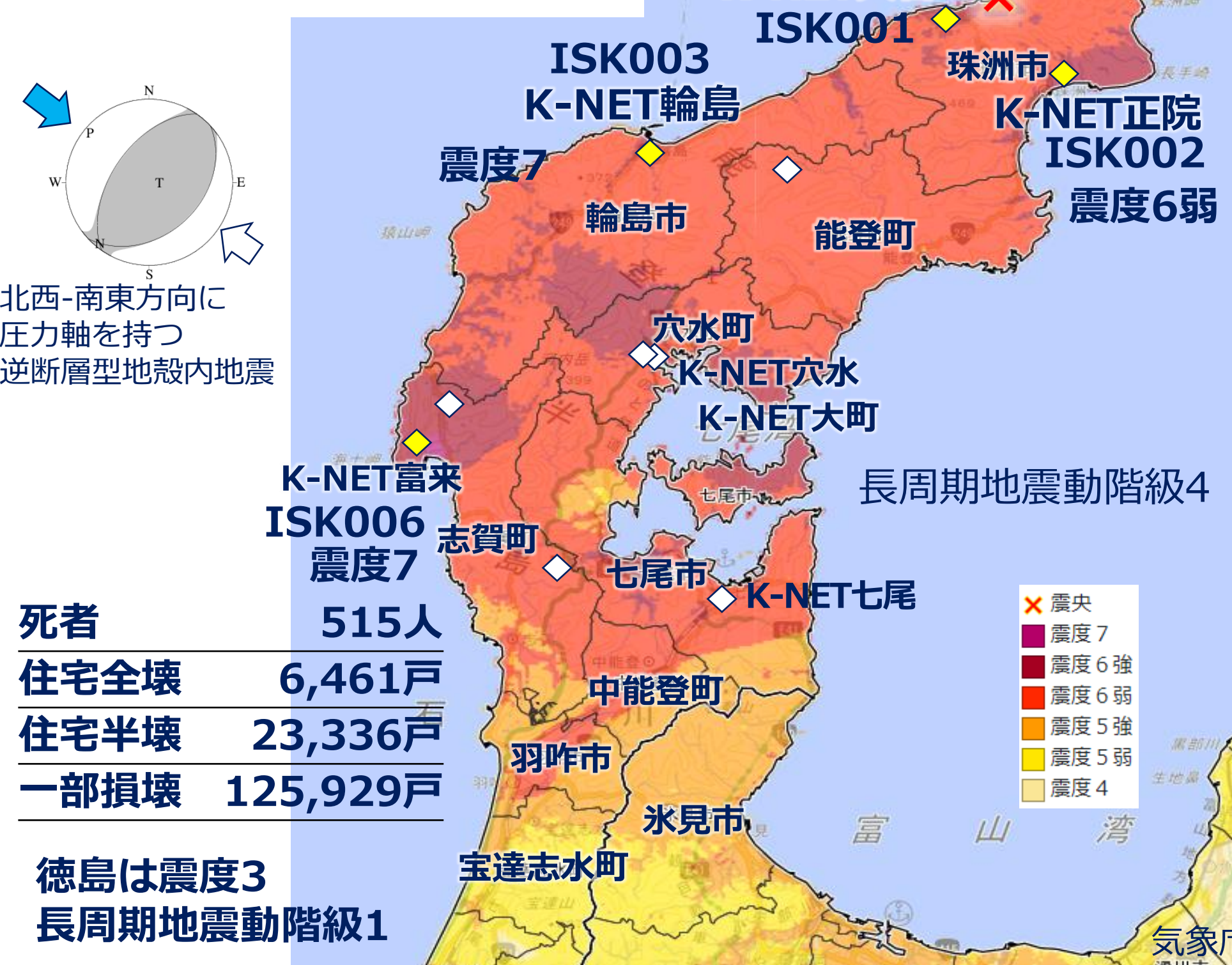
## 研究背景 · 目的

- ・ **地震観測記録に基づき、地震動の特徴を明らかにする**
- ・ **現地調査を行い、建築年代や構造種別の違いによる建築物の被害を明らかにする**

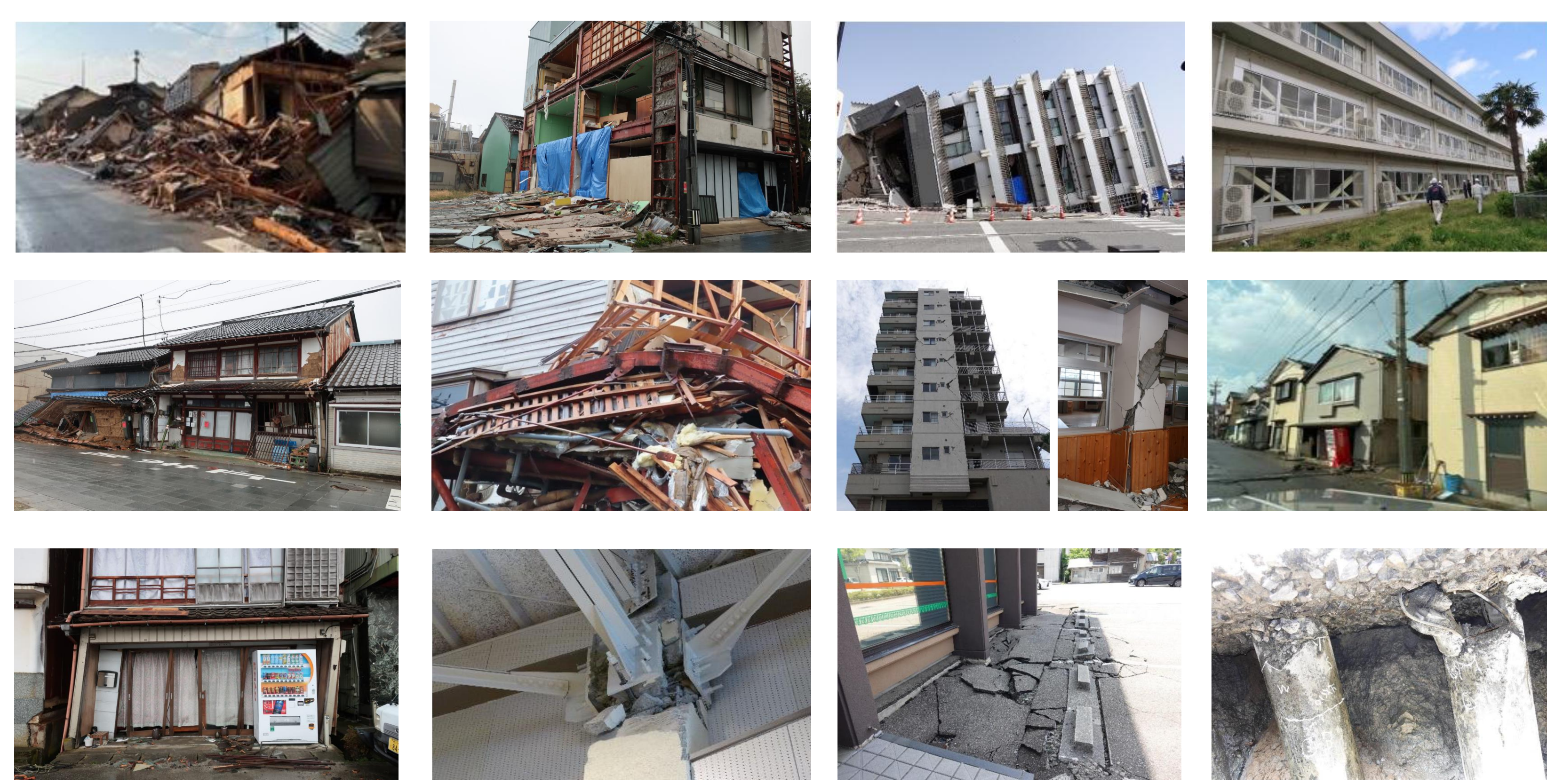
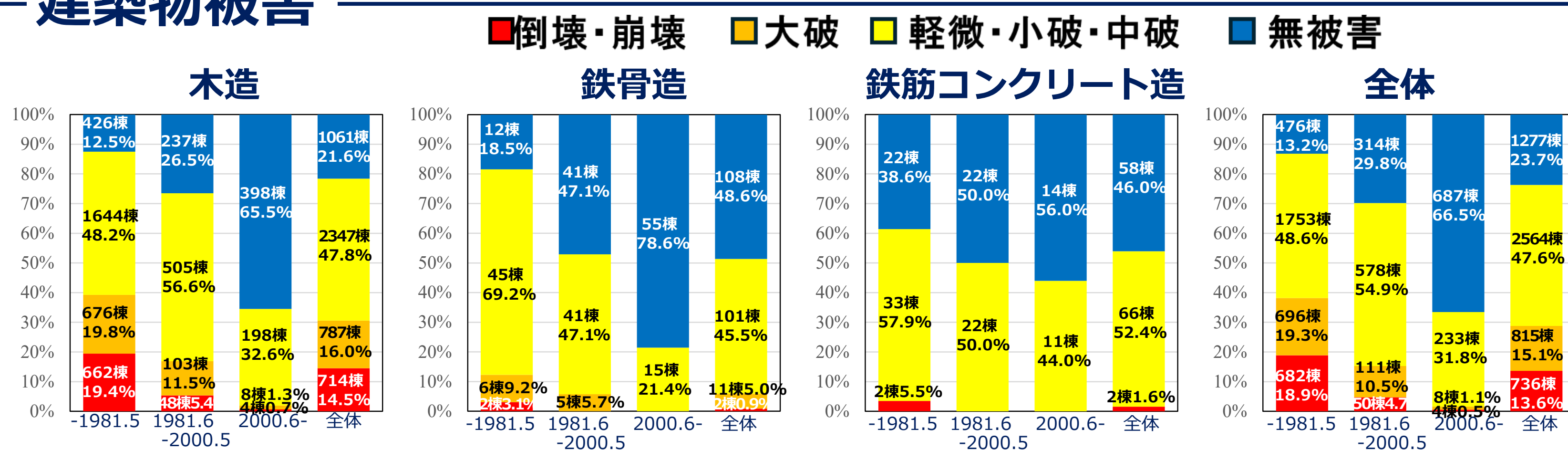
## 今後発生する「南海トラフ巨大地震」に対する 建築物の被害低減に活かす

## 地震概要

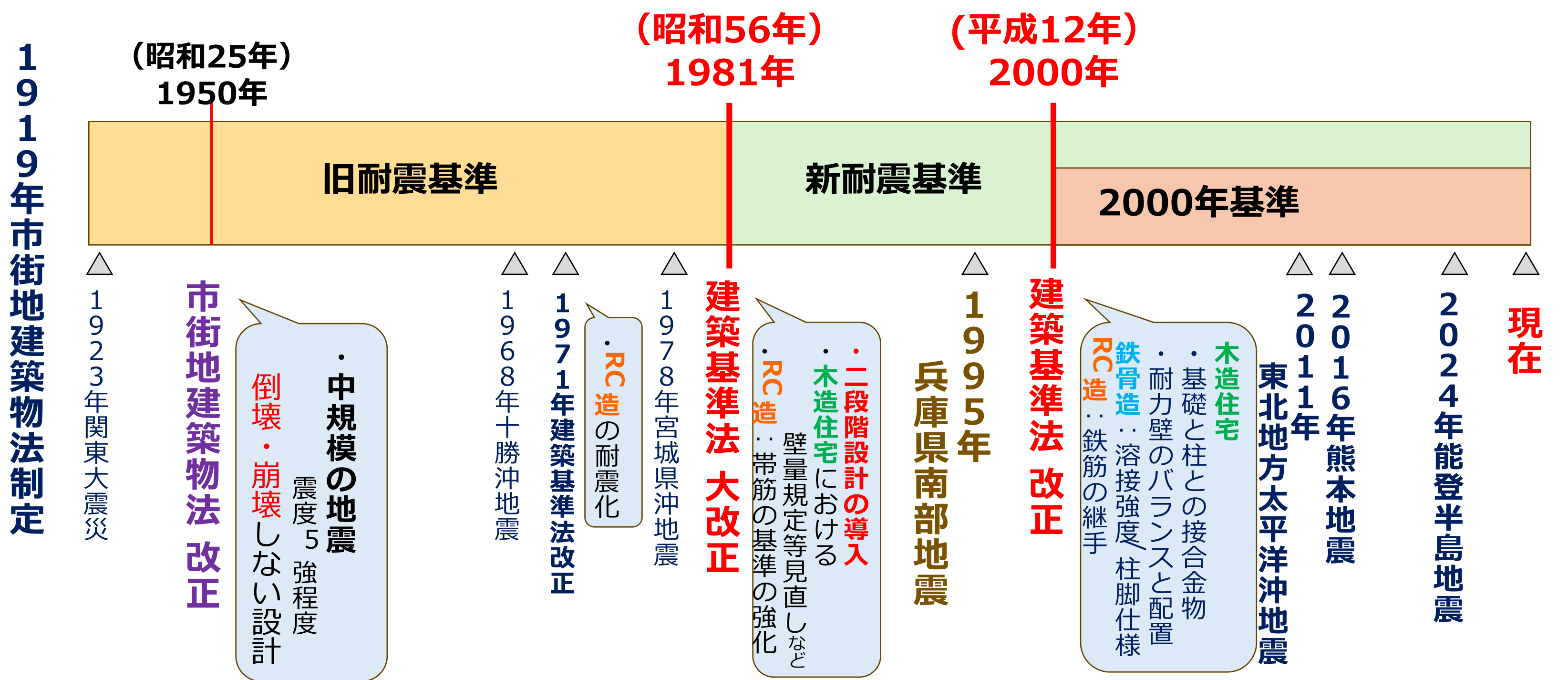
令和6年1月1日16時10分



## 建築物被害

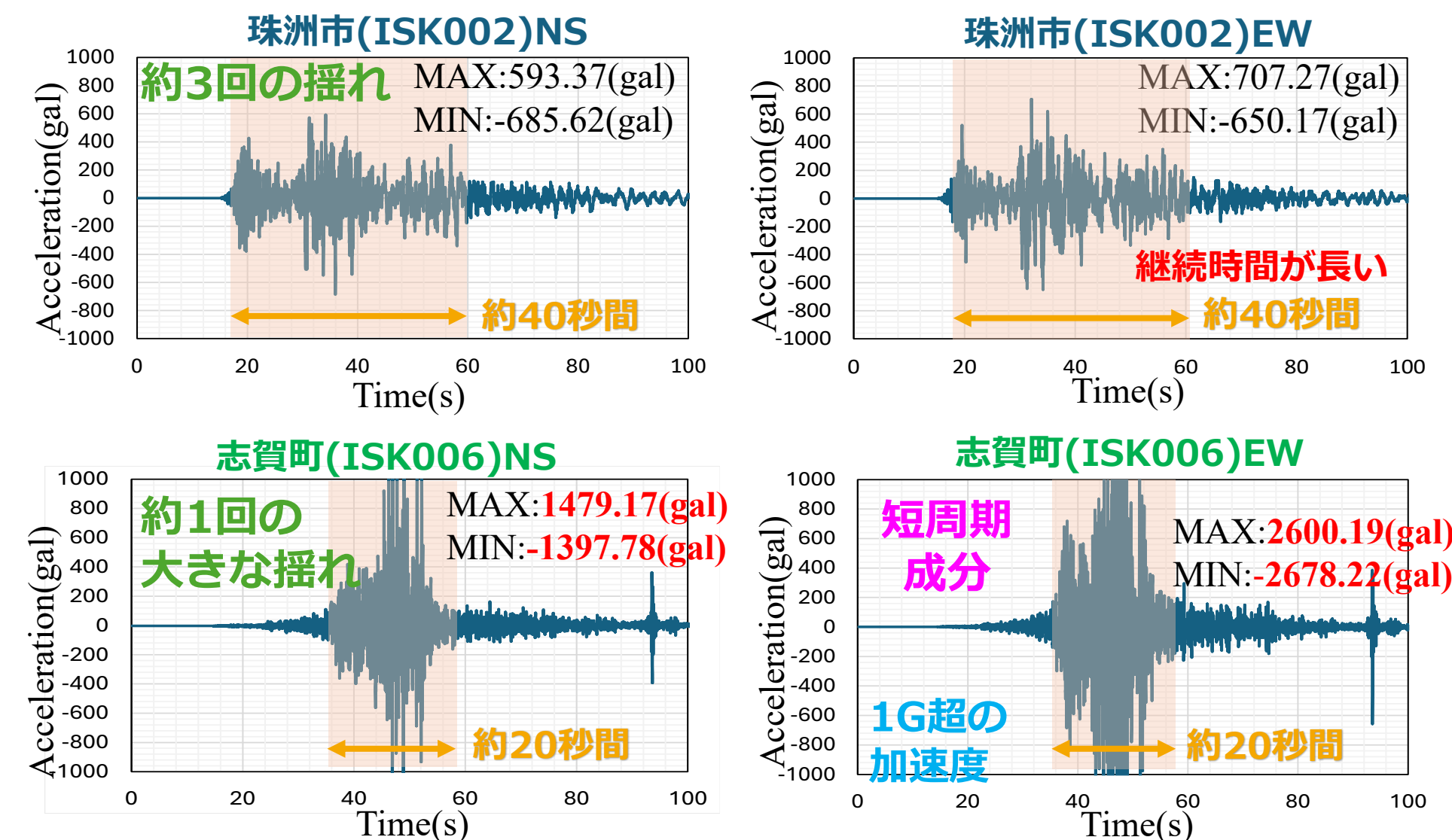


## 耐震基準の変遷



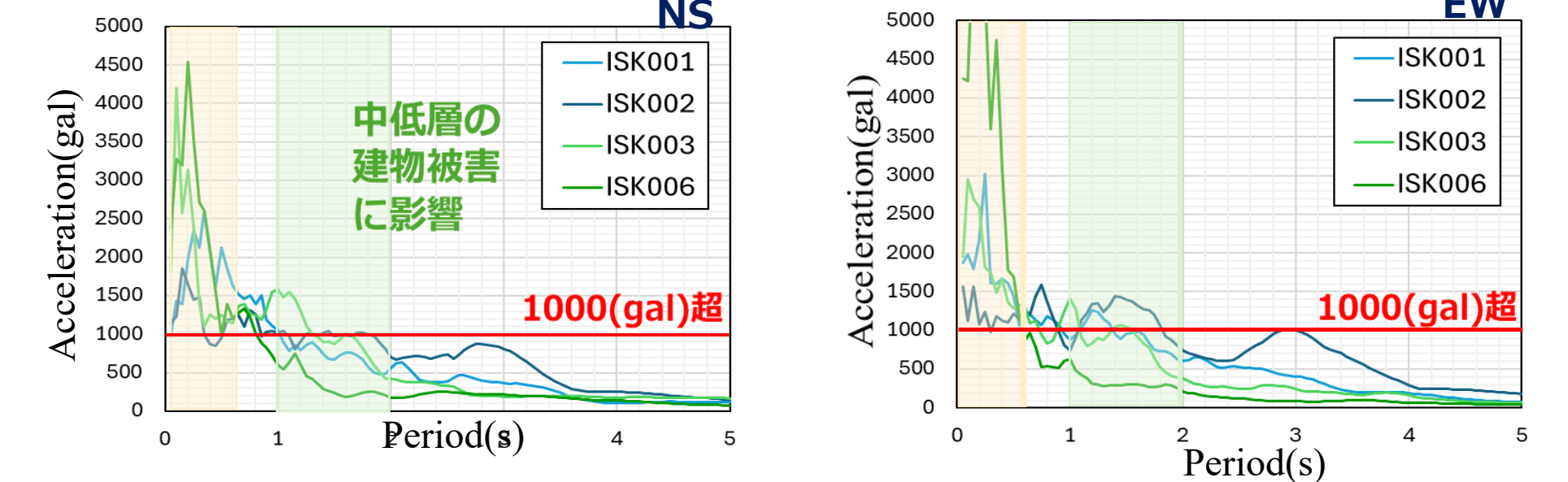
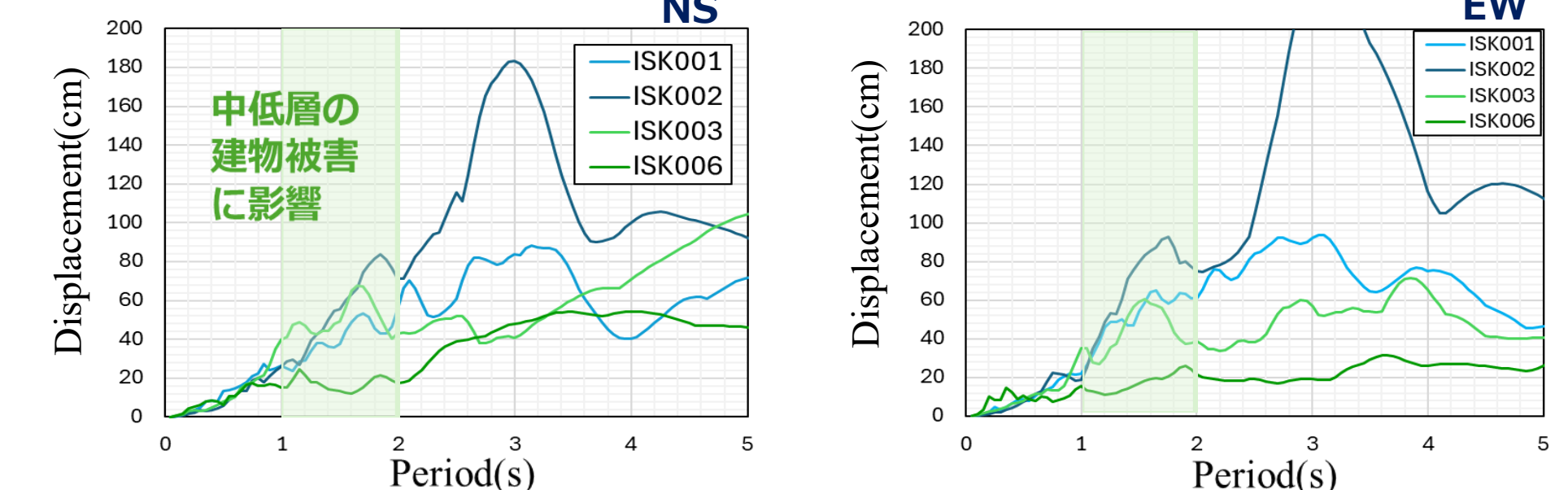
## 地震動特性

- ## ・地震波形の比較

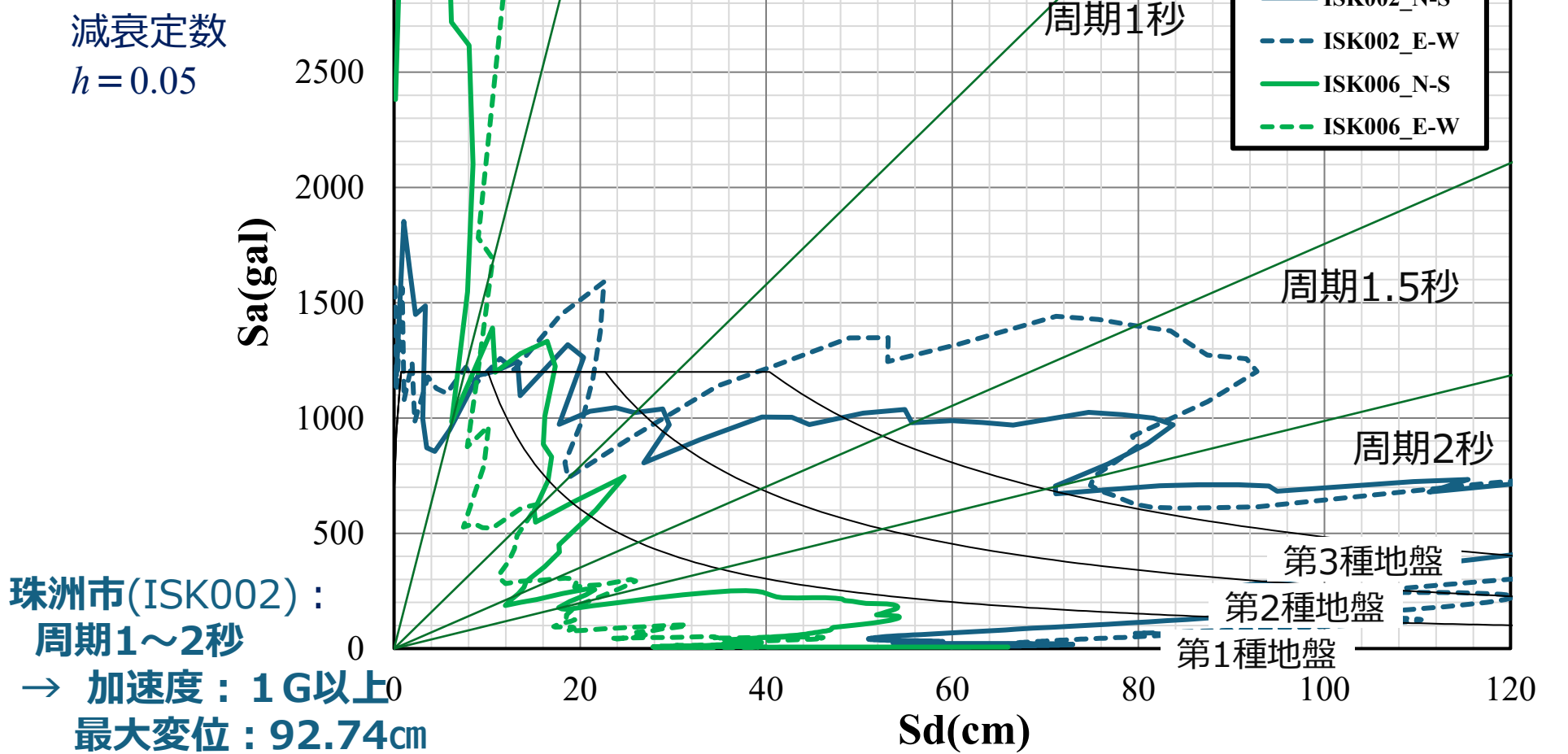


## ・地震スペクトルの比較

■加速度応答スペクトル：減衰定数  $h=0.05$

■変位応答スペクトル 減衰定数  $h=0.05$ 

■ Sa-Sd曲線 3000 周期0.5秒



## 結論

## ■ 地震動分析

**志賀町**  
短周期の応答が卓越  
最大震度 7  
地震の継続時間が短い

**珠州市**  
**周期1~2秒の応答**が卓越  
**最大震度6強**  
地震の継続時間が長い

## 住宅のような小規模な建物に 影響が大きい地震動

## ■ 建築物被害

2000年より前に  
建設された建築物

## 耐震補強

### 新耐震基準(現行)

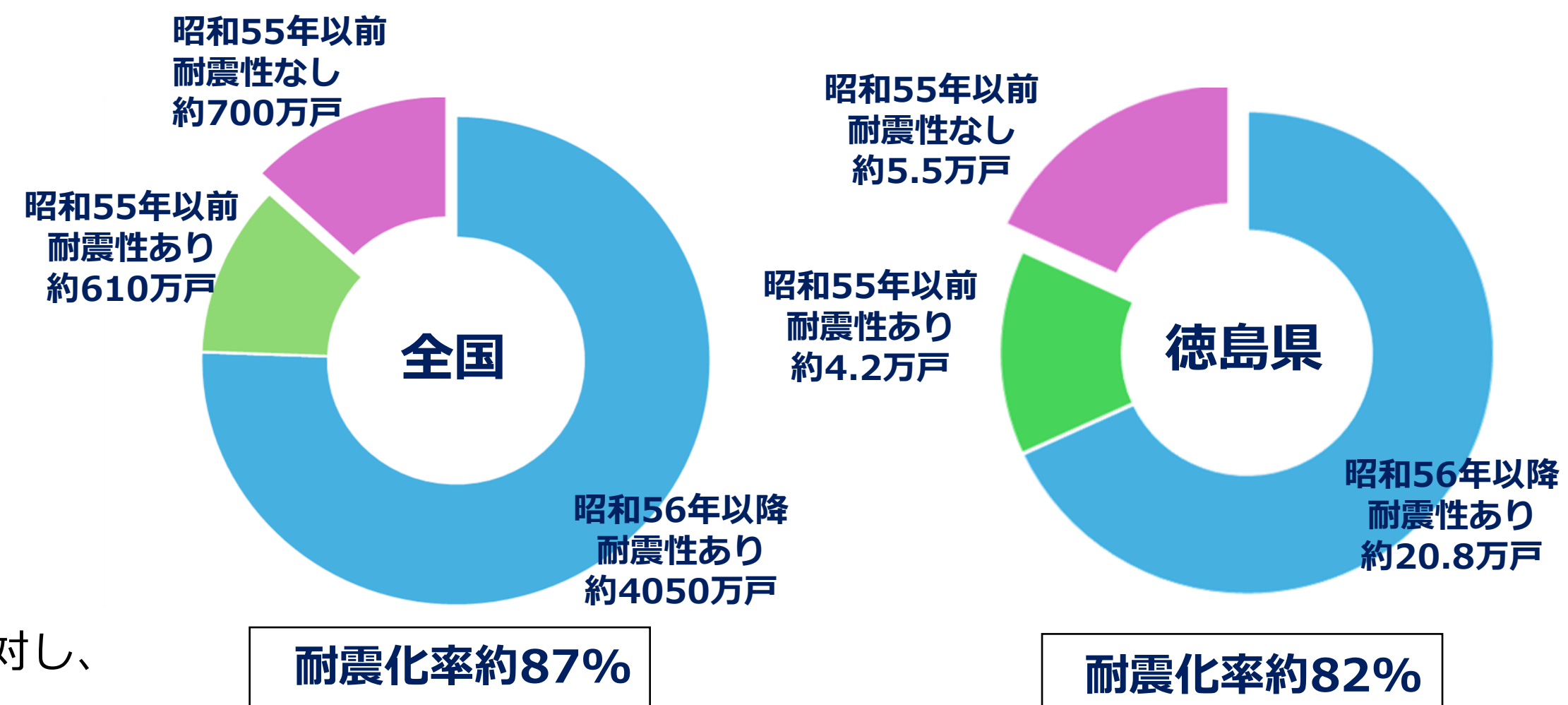
倒壊の危険性が  
大きく低下

徳島県では住宅 約30万戸 に対し、  
木造が約2/3を占めている。

**2000年より前に建てられた木造住宅が約7割を占め、建設年の古い住宅の割合が高く、耐震化の割合も低い。**

**徳島県では耐震化をより高めていく必要がある。**

## 耐震化率の比較 全国と徳島県



全国に比べ、約5pt、耐震化率が低い